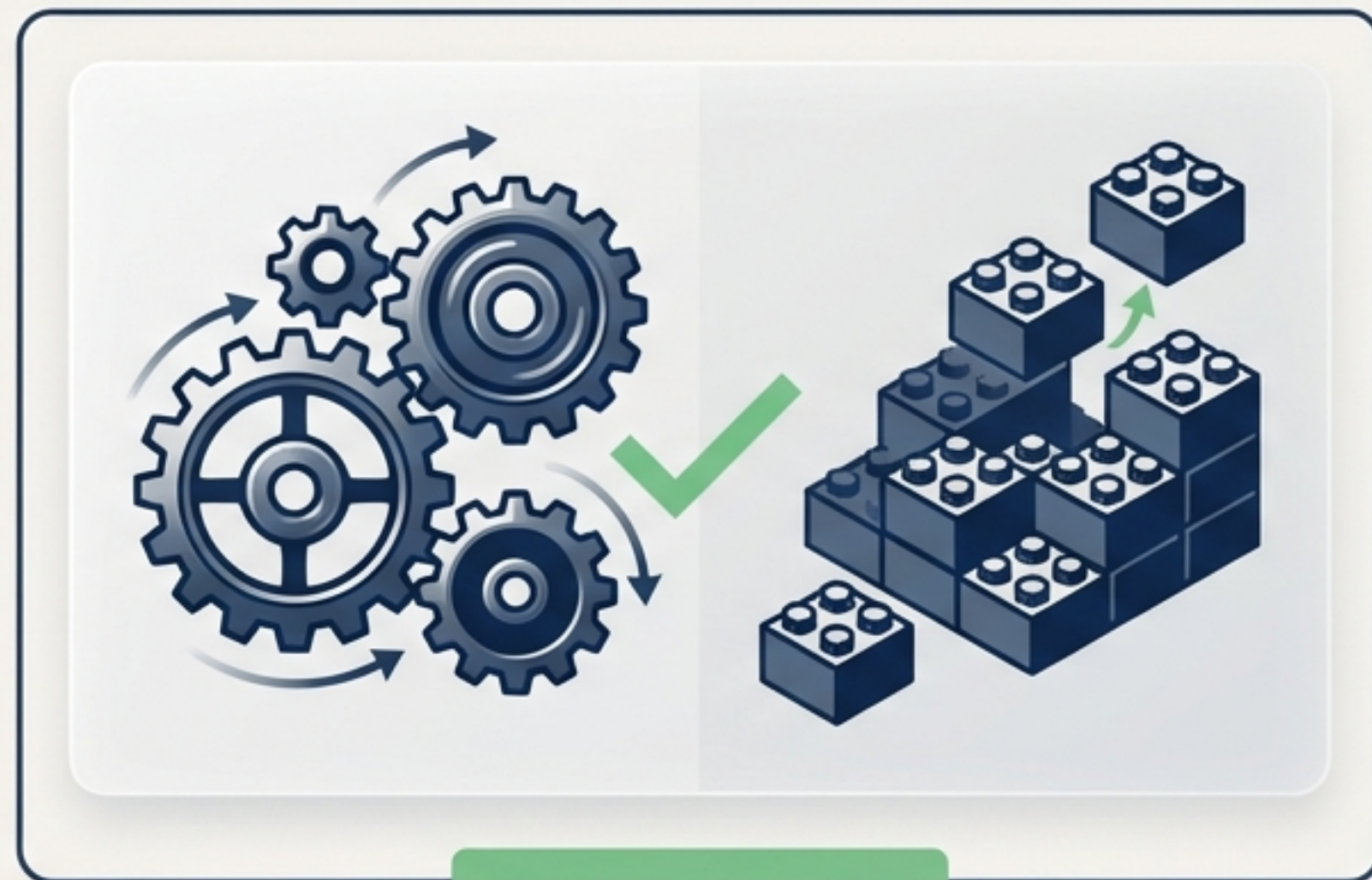


# 宅建試験の合否を分ける「真実」

能力や時間ではなく、結果を変える「行動パターン」の科学



合格を阻んでいるのは「頭の良さ」でも「勉強時間」でもありません。



試験合格者と不合格者を観察すると、両者には明確で共通する「行動パターン」が存在します。一見すると小さな行動習慣の積み重ねが、最終的な合否に大きな隔たりをもたらしているのです。

**小さな行動習慣の積み重ね**

# 合格者のログから生まれた「宅建行動工学」

世界の学者の研究成果や受講生の行動ログを分析した結果、不合格者と合格者の間には驚くほど一貫した違いがありました。この知見を体系化した独自のメソッドが「宅建行動工学」です。



宅建行動工学

合格者と同じ行動パターンを「インストール」することで、自然と合格へ近づく。

# 徹底比較：不合格者 vs 合格者の行動OS

## ✗ 不合格者に多い行動

5時間以下（慢性的な睡眠不足） ✗

「頑張る」など曖昧な目標のみ ✗

計画を立てるが見直さない ✗

週末にまとめてやろうとする ✗

自己流にこだわり指導を活かせない ✗

「忙しくて無理」という不満・苦しみ ✗

睡眠時間

目標設定

進捗管理

学習リズム

素直さ

感情状態

## ✓ 合格者に共通する行動

✓ 毎日6時間以上を確保

✓ 期限と数値を伴う具体的な目標

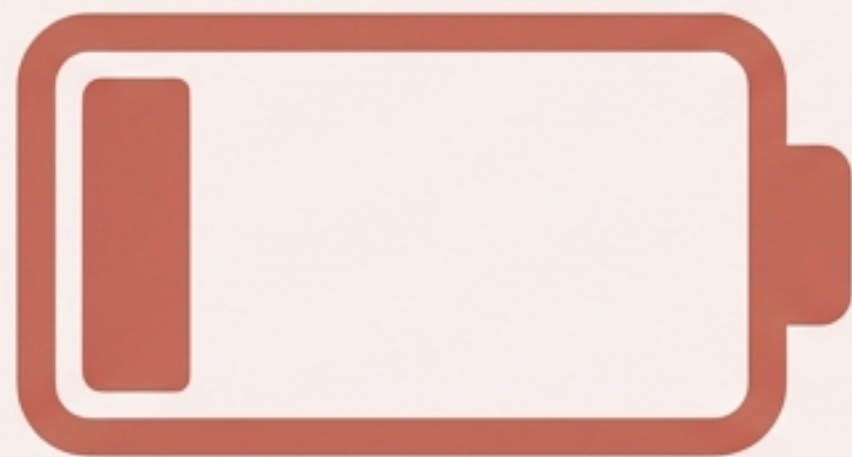
✓ 週次で進捗を確認・修正する

✓ 毎日の隙間時間も活用する

✓ アドバイスをすぐ行動に移せる

✓ 感謝・喜び・謙虚さを意識する

# ① 睡眠時間は「記憶定着の土台」である



**5時間以下**

認知機能は2日間  
徹夜した状態と同等



**毎日6時間以上**

「寝ることも  
学習のうち」

## 科学的根拠：脳科学

睡眠中に「海馬」が記憶を整理・固定する。  
5時間以下の睡眠が続くと記憶の定着率が著しく低下。

## ② 脳に「やるべきこと」を明確に指示する

とにかく頑張る...



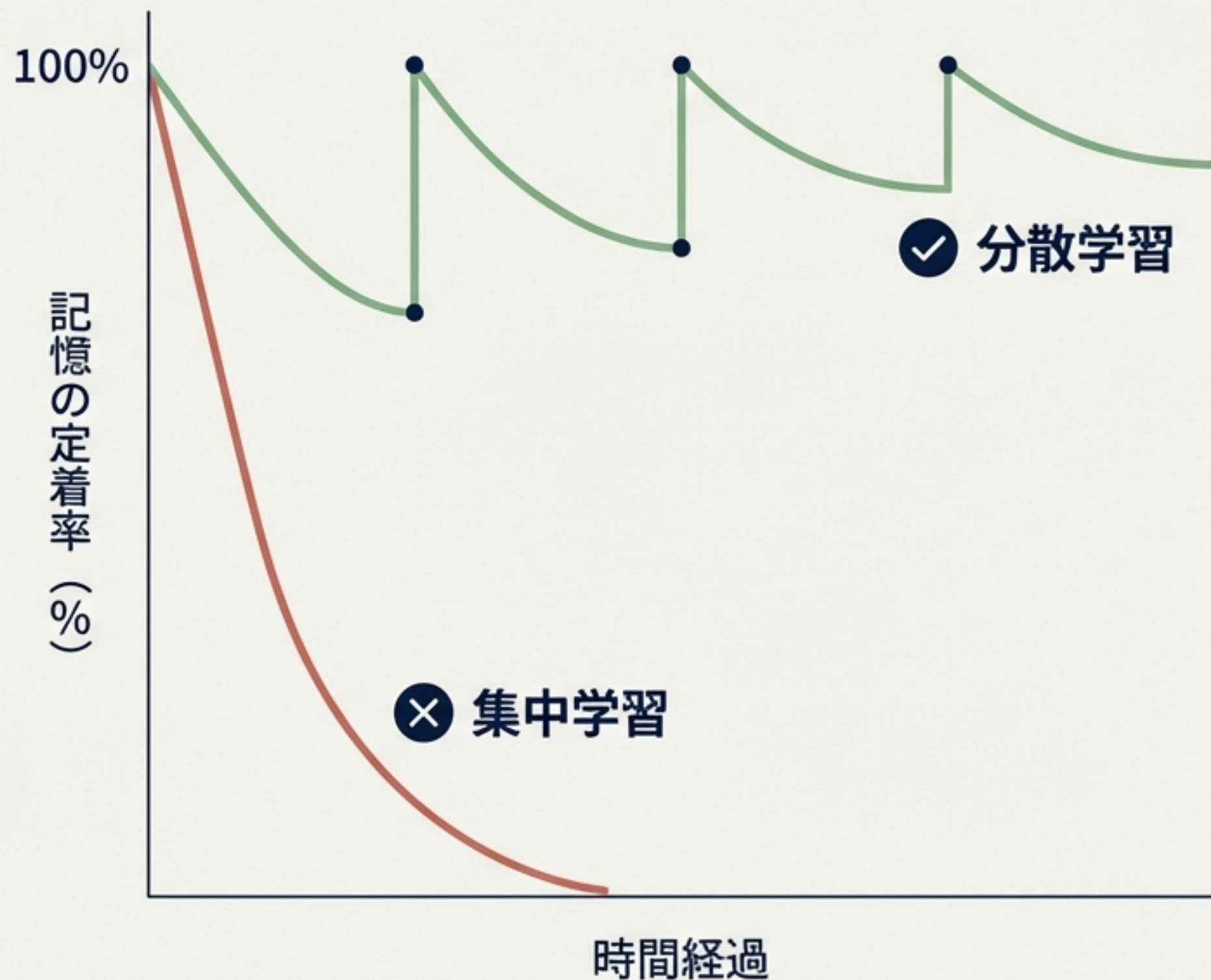
今週中に宅建業法の  
過去問3年分を  
9割正解する



### 科学的根拠：ロックの目標設定理論

具体的で測定可能な目標を持つ人は、曖昧な目標を持つ人より高いパフォーマンスを発揮する。

### ③ 「忘却曲線」に打ち勝つ毎日の分散学習




# 15分

通勤時間・昼休み・就寝前の隙間時間

週末にまとめて勉強するより、  
毎日少しずつ反復する方が  
記憶の定着率は圧倒的に高い。

## ④ 行動を変える最大の武器 「コーチャビリティ」



 科学的根拠：スポーツ心理学・組織行動学

「コーチャビリティ（指導を受け入れ実行に移せる能力）」は、成果を出す人の最重要特性。知識として理解しても、行動しなければ結果は変わらない。

## ⑤ 感情状態が「記憶のメカニズム」を支配する



### 🔬 科学的根拠：アズ・イフの原則

感謝や喜びを先に「強制的に」持つことで、後から本物の喜びと意欲が自然についてくる逆説的効果。

# 目指すのは、知識の詰め込みではありません。

宅建行動工学が目指すのは、「合格者の知識を教えること」ではなく、「合格者と同じ行動パターンを、あなた自身にインストールすること」です。世界の研究知見と受講生データに裏付けられた行動様式を日常に落とし込みます。



## 「合格者の行動 (OS)」を 自分にインストールする

# 行動が変われば、結果が変わる。

合格者と同じ学習が自然に進められるようになれば、知識の習得はその後から必ずついてきます。宅建行動工学は、あなたの合格を「仕組み」としてサポートします。

合格